

# 水俣病で墓地発掘始まる

## 熊大 有機水銀汚染にメス 調査団

飲を建設するため付近一帯で改葬—発掘のきっかけになったのは  
が行なわれている。—  
ことし初め改葬のため掘り起し

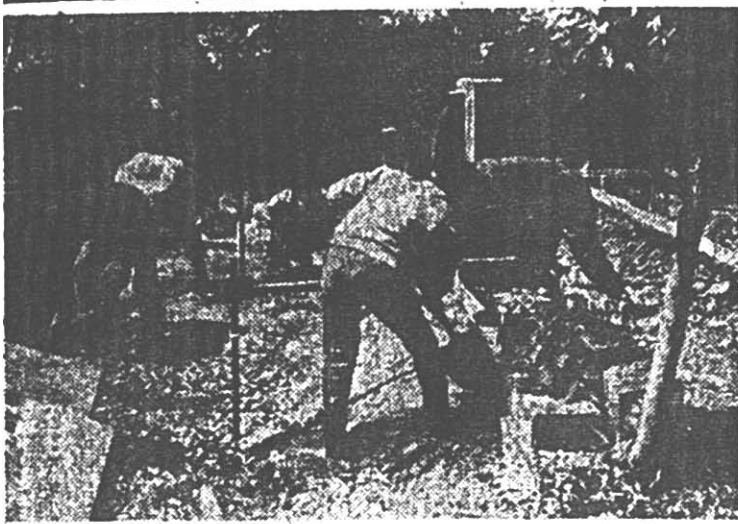
てみたところ、水俣病患者の遺骨  
が黒ずんでいたことから、地元か  
ら熊大に調査を依頼、熊大も有機  
水銀の汚染の広がりをつかもうと  
この発掘を始めた。

熊大は遺骨を持ち帰り、衛生学  
教室で分析し、骨と有機水銀の関  
係などの実態をはっきりさせる。  
今後も続けることにしているが、  
具体的な対象者はまだ決まってい  
ない。

熊大医学部の公衆衛生学、体質  
医学研究所などの水俣病合同調査  
団の松下敏夫助教（公衆衛生  
学）ら七人が、八日から水俣市月  
の浦で水俣病の疑いが持たれてい  
る故川本嘉藤太さん（四十年四月  
六十八歳で死亡）の墓を掘り始め  
た。発掘作業は八日は遺体の見え  
るところまで掘り、九日形態学専  
攻の今井謙助教授（体研）に見  
てもらって遺骨をとり出す。

病院と水俣保養院に入院してい  
た。死亡時の診断は脳動脈硬化症  
だった。川本さんは、公害被害者  
認定審査会で認定もれになったた  
め、厚生省に行政不服審査請求を  
している病院看護人川本輝夫さん  
（同）の父親。墓地発掘には輝夫さ  
んが立ち会った。

また嘉藤太さんの発掘と並行し  
て、隣にある妻カナさん（二十三  
年五十一歳で死亡、輝夫さんの話  
によると水俣病ではなかった）の  
墓も掘る。いずれも土葬で、納骨



水俣病の墓地発掘調査（水俣市月の浦で）